

# 「宝が池の森」保全再生協議会 取り組みの紹介

〈前半〉 自然あそびから森育てへの展開～協議会発足へ

『宝が池の森』保全再生協議会

公財)京都市都市緑化協会,

宝が池生態系保全研究会, 京都宝の森をつくる会

令和4年2月28日

野田奏栄



# 協議会パンフより

## 「宝が池の森」保全再生協議会



### 協議会の目的と活動の内容

「宝が池の森」保全再生協議会は、宝が池とその周辺の森の保全・再生に向けて、私たちができることを考え、実行することで、多様な生物がすみ、それを活用できる豊かな森を将来に継承していくことを目的として、2015年10月に発足しました。

いのちにぎわう  
宝が池の森

Point

1

みんなで  
取り組む  
森づくり

Point

2

宝が池の森を  
未来へ

Point

3

協議会では、目的の実現に向け、

- 宝が池の森の保全・再生・利活用に関する情報及び意見を交換・共有・調整するための会議の開催。
- 宝が池の森の保全・再生・利活用に係る勉強会、報告会、シンポジウム等の開催。
- その他、宝が池の森の保全・再生・利活用のために必要な協働活動及びその資金獲得に関することに、関係する組織・団体・研究者・個人が連携、協働して取り組みを進めていきます。

## 活動区域（対象区域）



宝が池公園区域を含む宝が池集水域並びに松ヶ崎周辺をコアエリアとし、必要に応じて深泥池集水域及び上賀茂本山なども含めて広域に検討してゆきます。



# 水田地帯より宝が池方向を臨む ～昭和初期～



昭和17年

防空緑地 公園面積は 121.8ha

昭和39年

子どもの楽園開園

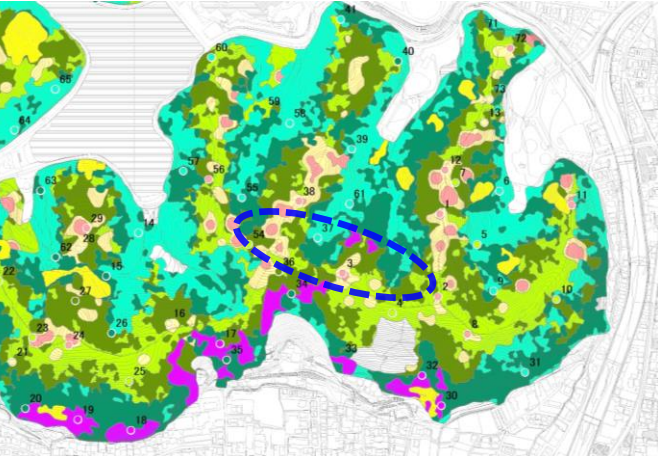
昭和46～53年

菖蒲園、いこいの森、さくらの森、北園

平成20年

子どもの楽園リニューアルプレイパーク開始

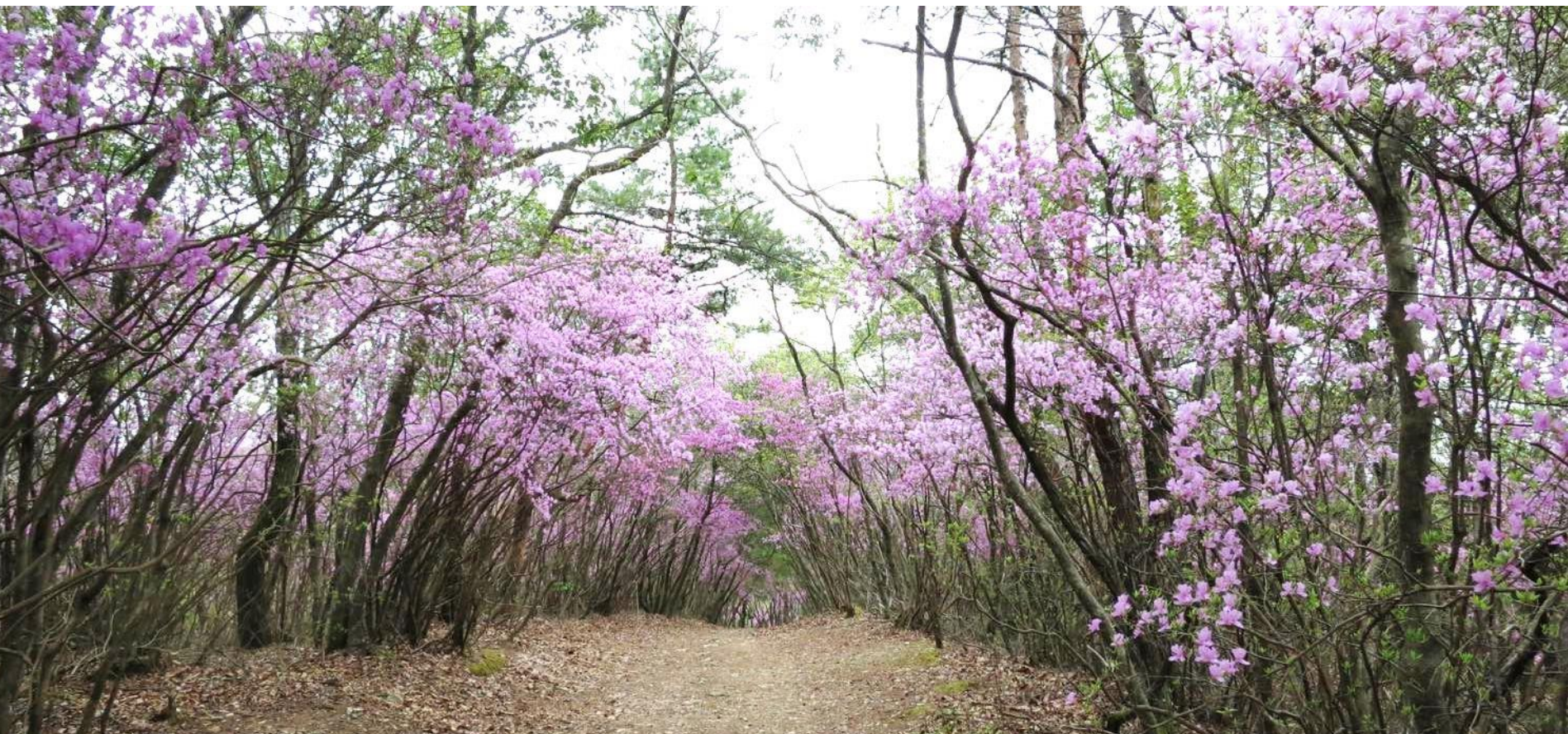




植生図: 丹羽英之氏提供

昭和30年頃までは、薪や炭などの燃料や落ち葉、キノコなど生活の糧を得る「里山」でした。木を伐り、手入れをすると林内に光が入り、様々な草花や花木が咲く明るい森が維持されてきましたが、木を使わなくなってから、森の環境が大きく変わっています。

南斜面には、五山の送り火「妙」「法」の火床があります。







アカマツが残る山稜

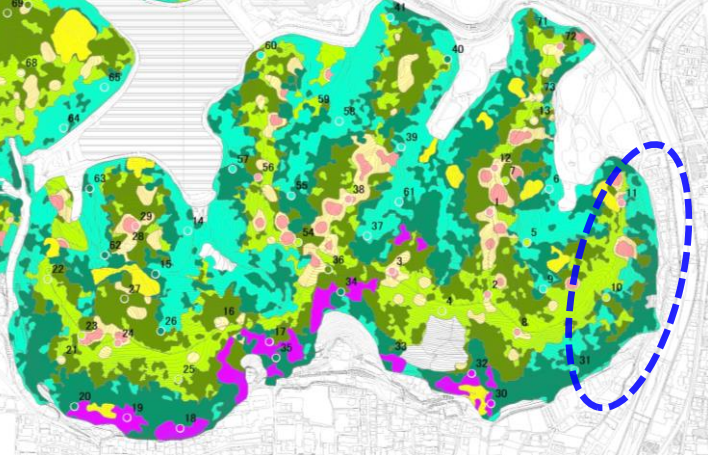




宝が池は、江戸時代にかんがい用につくられたため池です。周囲の森と池の一带が都市公園となってからは、森と水が織りなす四季折々の美しい景観を楽しめる場として親しまれています。

1年中水鳥が見られ、冬には渡り鳥も多く飛来します。水中にも魚やカメなどの生きものが生息していますが、近年はオオクチバス、ブルーギル、ミシシippアカミミガメなどの外来生物が増え、昔から生息してきた「在来種」への影響が心配されます。



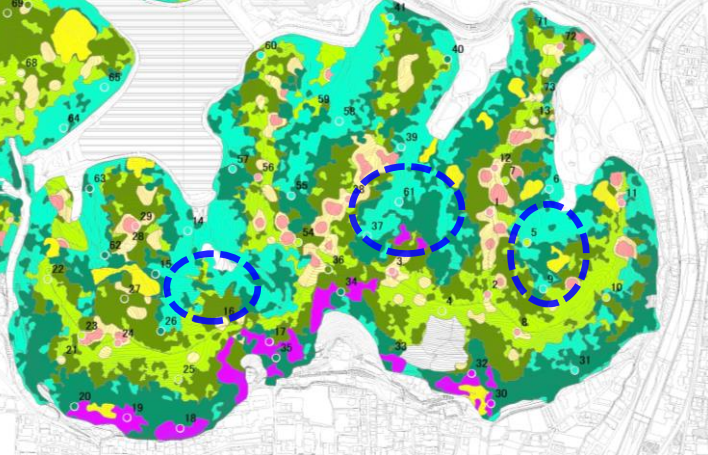


川辺・川中の草地



宝が池公園の横を流れる  
高野川・岩倉川と桜並木





大径木のコナラやアベマキ  
が多い北向斜面の谷筋



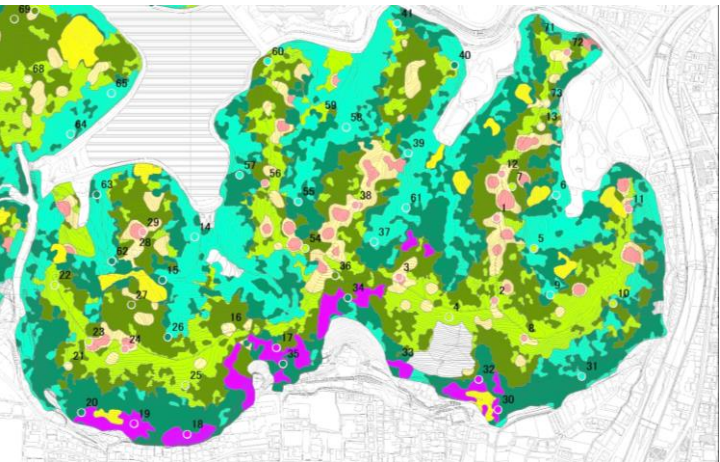
(H21ごろ)



# 林縁の花や実をつける低木



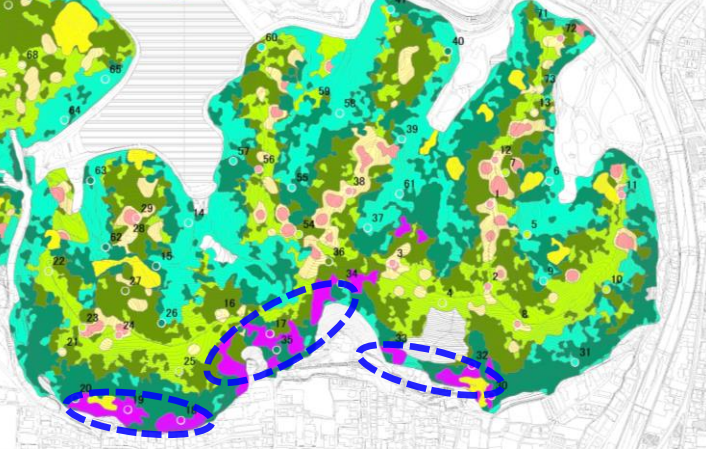




## 谷合の湿地







シイ林が広がりにつつある南斜面底部

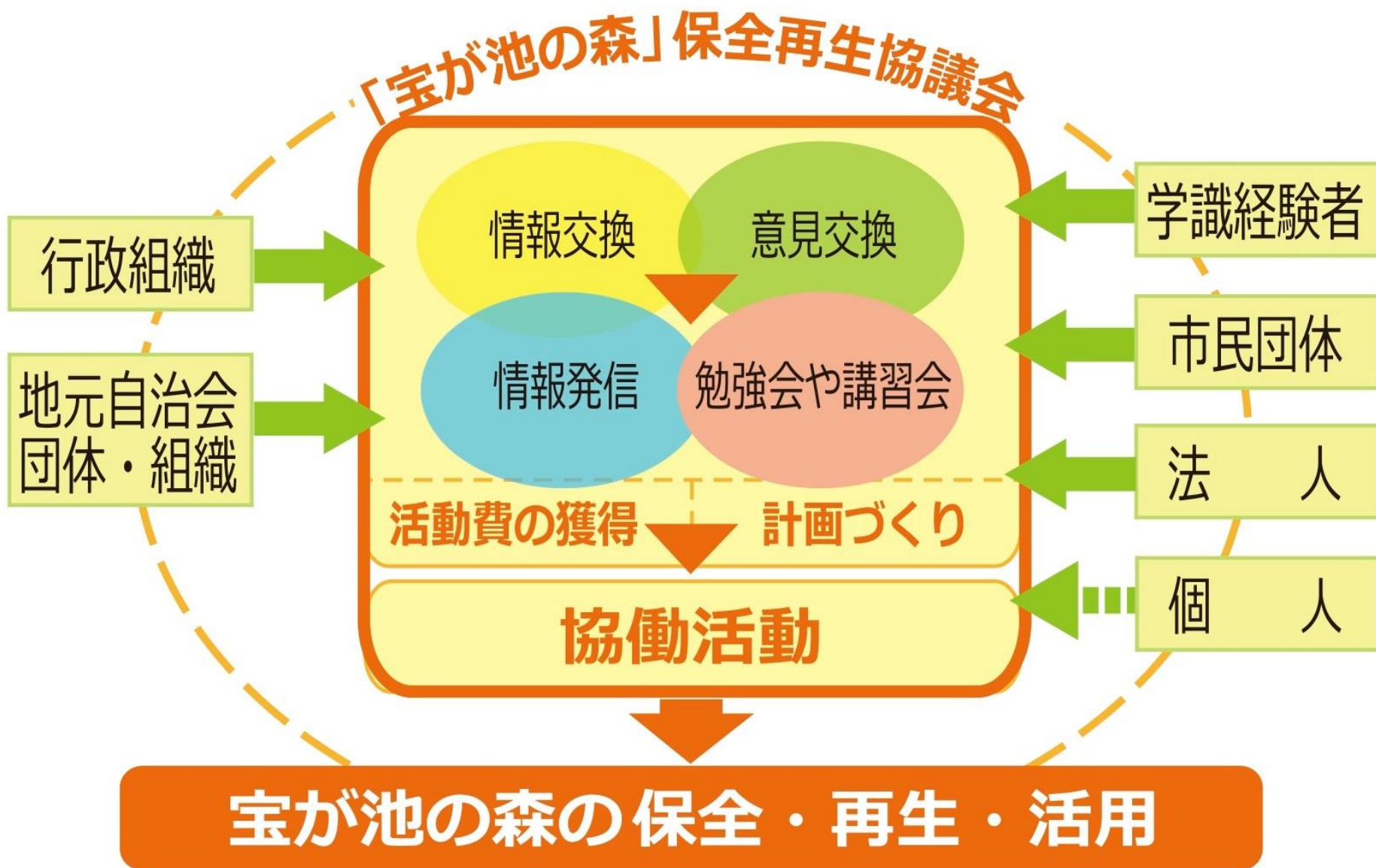




生物群集全体が天然記念物に指定されている深泥池



# 主な取り組みと体制





# 協議会発足への道は '子どもたちの自然あそび'から





# ■「宝が池の森」は ひとと自然をつなぐ入口

## 自然とまちの結節領域

もり(里山雑木林)

もり(里山雑木林)

「訪れる」「使う」

だけの公園利用

「手入れする」

というレクリエーション

と学びの場へ

+管理と一体となった

プログラム



大学が多い環境の中、昔から

「研究や調査の場」としても 活用されてきた森



# こどもたち・・・

- \* 薪とり \* 落葉採り
- \* マツタケとり \* 兎追い
- \* ゲンジ採り・・・

あそびや手伝いで  
山に入る

くらしとあそびの融合

異世代間の  
コミュニケーション

見て・学ぶ  
教わる

チャレンジ

技・自然の見方・付き合い方  
魅力、めぐみ、楽しさ  
こわさ、危なさ、おそれ

森をうまく使うこと・利用  
することが森の「手入れ」

多様な環境をつくり  
多様な恵みを享受できる

生物多様性の維持

・・・そういう姿の森を取り戻す・ひきつぐ・・・



# ■体感する！年間通じてかかわり続け・見続ける

	季節を感じ 愛でる	観察・探検	手作業・ 創作	昔のくらし 英知を知る	育てる たべる
森のしくみ・つながり					
春	ツツジに 染まるハイ キング	春の野鳥観察 野草観察・味 わう	春の草木染め	竪穴式住居	へちま育て よう
夏	川あそび キャンプ	川の探検隊 ナイトウォツ チ・昆虫観察 星空観察	あんぎん編み	川床文化	いきものを そだてる
秋	キノコ& 紅葉ハイ キング	鳴く虫観察  いきもののつ ながり	秋の草木染め 紅葉・どんぐ りクラフト 巣箱づくりと 手入れ	土器づくり  どんぐりを たべよう	森を育てよ う（種植え & 植樹）
冬		水鳥・冬鳥観 察	森の手入れと リースづくり 炭焼きアート	落ち葉かき 縄であそぶ	しいたけ菌 打ち







つかう・創作することが 森の手入れにつながる



森の材を利用する、循環する知恵・技術を伝える





# 自然の中で培われた歴史文化の体感(自然とつながるくらしの原点)



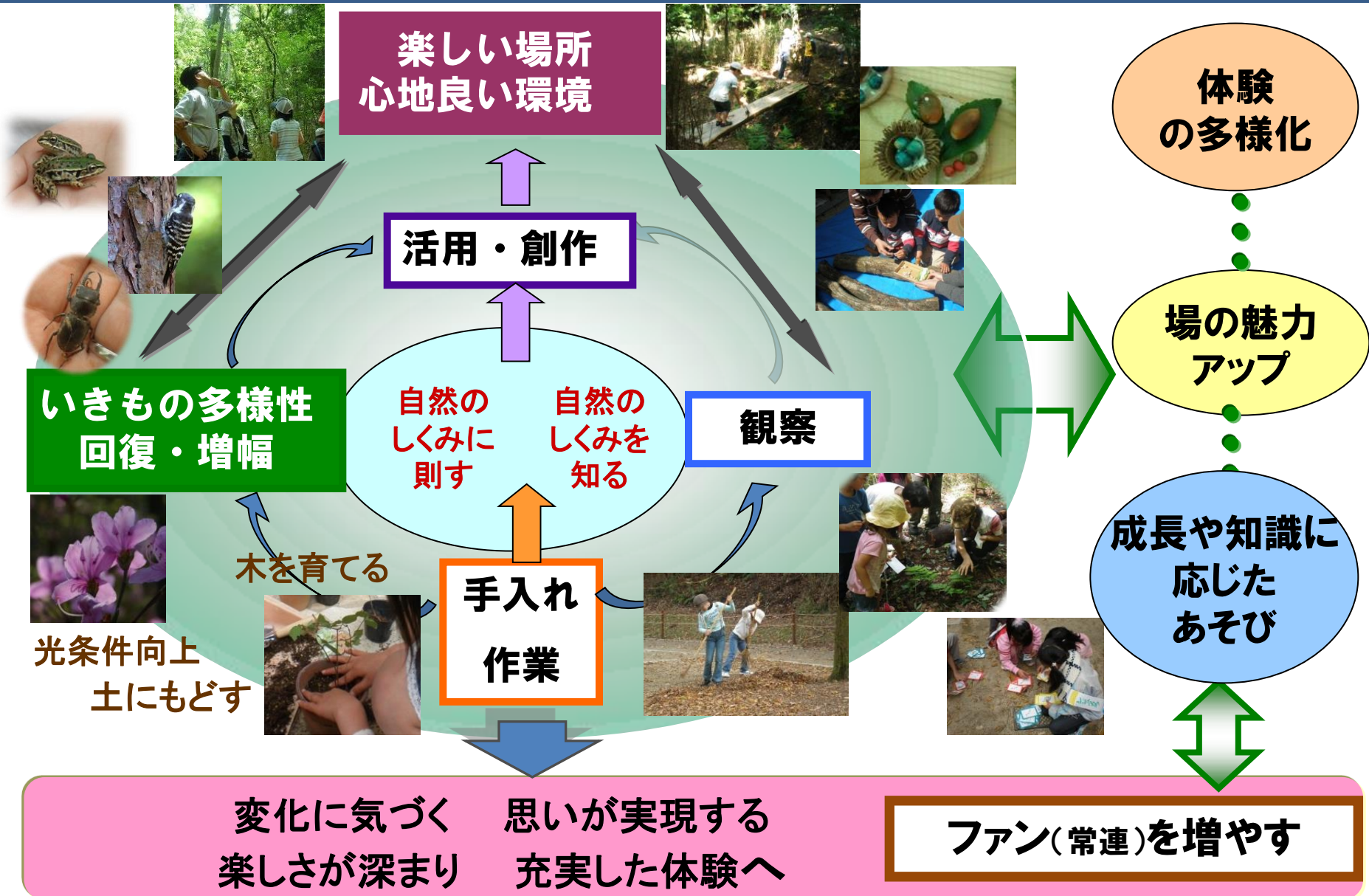


# 森をそだてる・いきものを育む・みまもる





# ■人のかわりか より多様性豊かな環境と より豊かな体験・経験をみちびき 『循環』を生ま出す





これを実践していくためには・・

■基本的な姿勢・考え方■

①「正しい・新しい」情報と理解・手法をベース  
に森の手入れ・森の利用をおこなう

②「順応的管理」を基本に取り組みをおこなう

③知識と経験（地域・知恵・習わし）を反映する



●宝が池をフィールドにする研究者・大学との連携

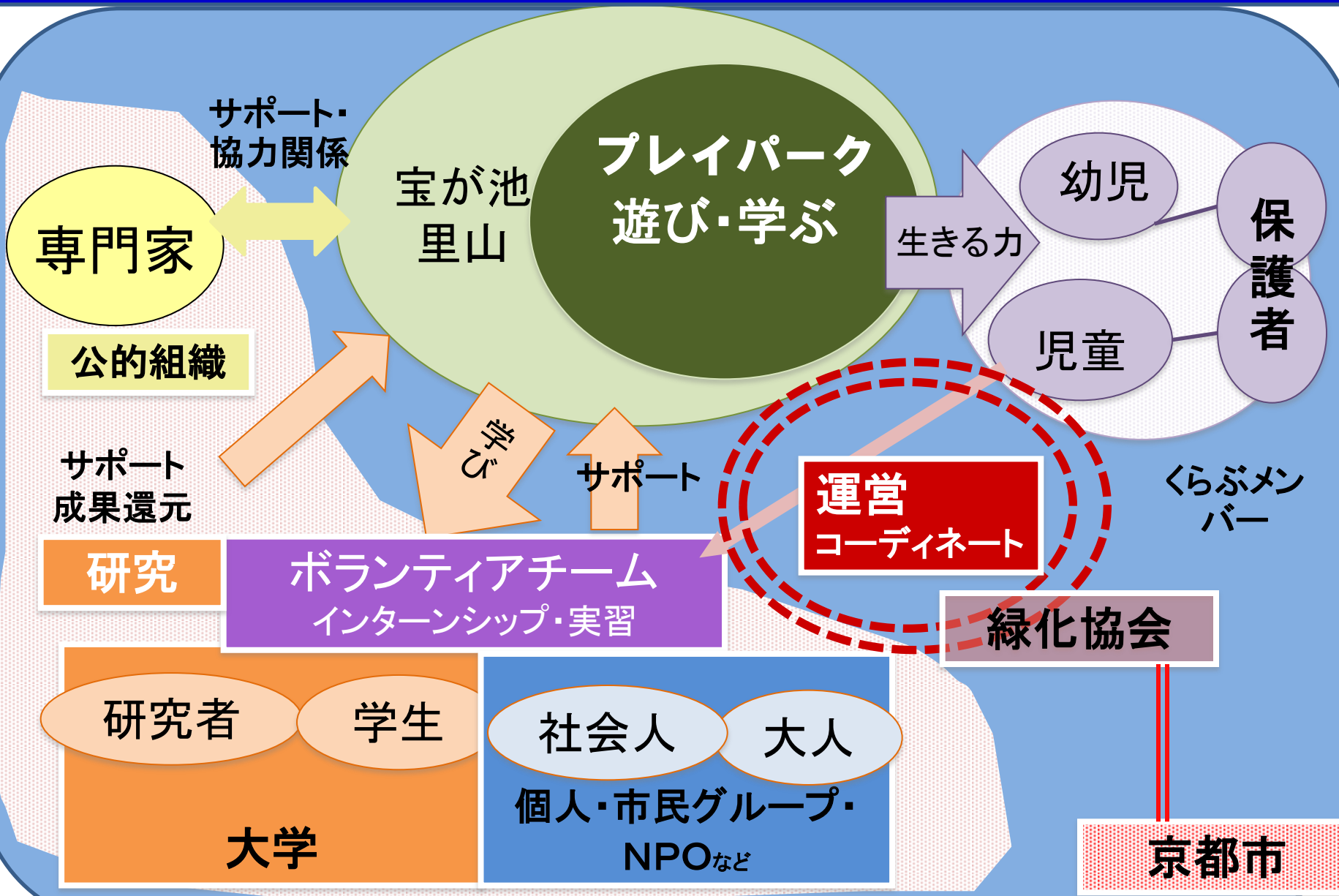
●多彩な「専門家」・・・プロ・達人のサポートも重要

～～～人・ネットワーク～～～



# ■ 様々な人がかかわる ‘自然あそび’ を支える体制

〈プレイパークコミュニティ〉 → 協議会につながる





## ■ 基本的な姿勢・考え方 ■

- ①「正しい・新しい」情報と理解・手法をベース  
に森の手入れ・森の利用をおこなう
- ②「順応的管理」を基本に取り組みをおこなう
- ③知識と経験（地域・知恵・習わし）を反映する



### 「宝ヶ池座談会」の開催

協議会の前身と交流・連携のスタート＝

- 宝が池をフィールドにする研究者・大学との連携
- + 近隣の他の活動団体等との情報交換

やや広域的な動向・視野・情報も共有



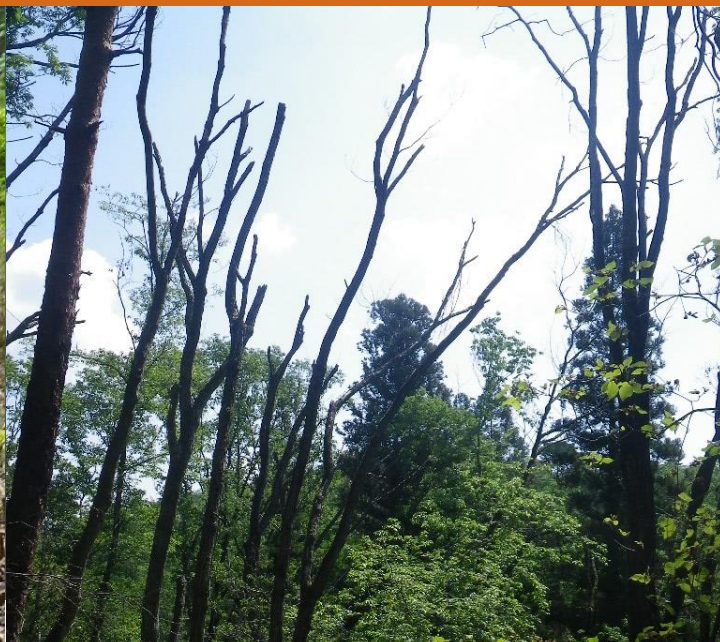
# ◆急激におとずれた森の変貌1◆

## ●ナラ枯れのひろがり・・・カシノナガキクイムシ



●外来植物の進入・急激な拡大

●ナラ枯れのあと・・・きたない・あぶない・もったいない！





# ◆急激におとずれた森の変貌2◆

## ●増えたシカによる影響





# ● 増えたシカによる影響



2012年



枝折り

樹皮はぎ



2011年ごろから顕著に



# 根浮き（表土流出）・根倒れの増加



2012年～2013年から顕著に



2018年頃～



2012年





# 表土流出～ガレの発生/大木の倒木の危険性

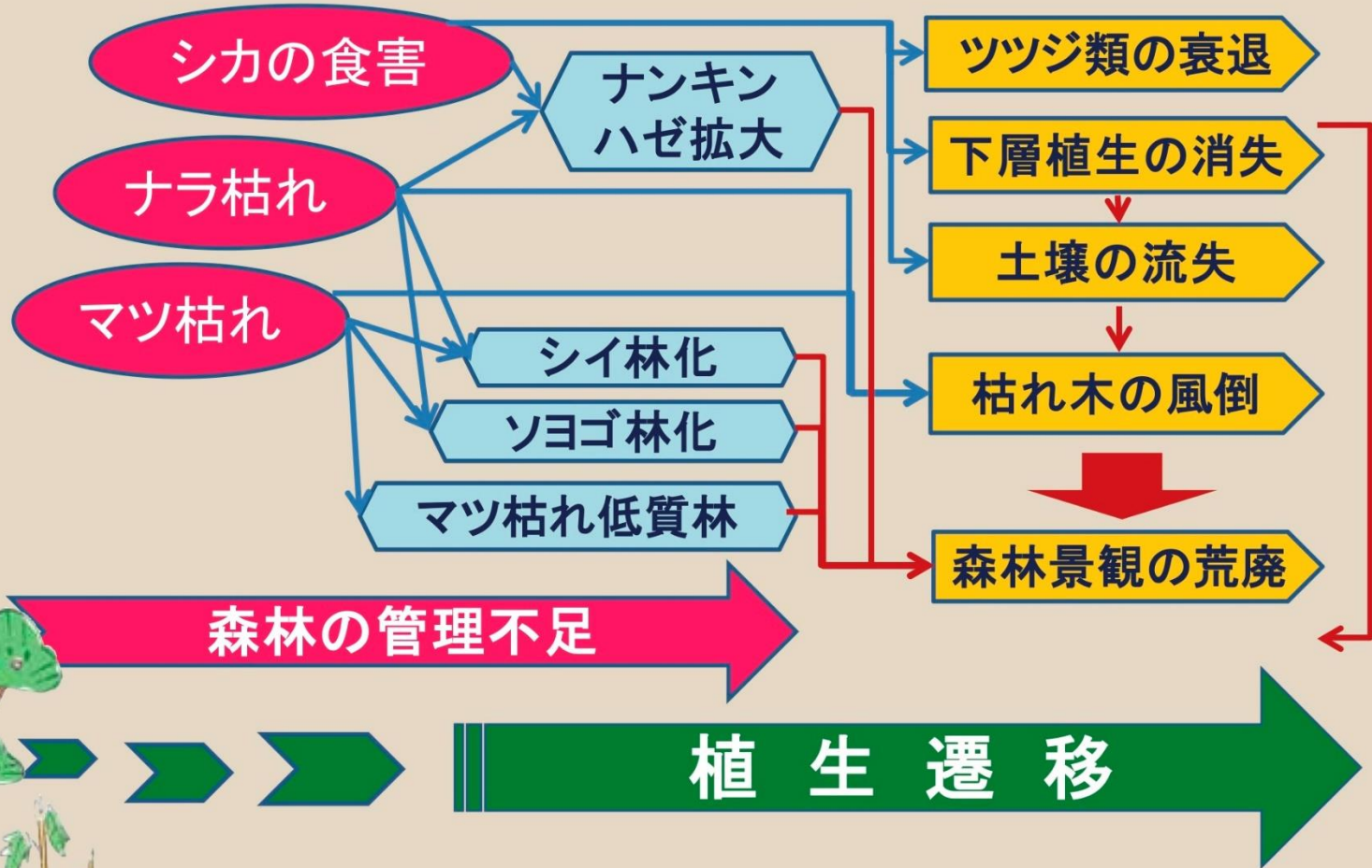
下草がなくなった森では 土がながれやすくなり  
地面に大きな溝があちこちで出現



安全性への懸念(倒木・土砂流出)



# 宝が池公園の森林問題



森の荒廃・劣化/生物多様性の低下 ◆ あそび・まなびの場の喪失



# ●森の問題の広い周知・共有にむけて 〈シンポジウム〉

第2回 宝が池シンポジウム

## ツツジ咲き誇る 宝が池の森を未来へ

考えようみんなの  
もり



2014年  
1/12(日)  
13:00~17:00

会場 京都府立大学  
大学会館2階多目的ホール

主催：(公財)京都市都市緑化協会 / 京都府立大学森林科学科

京都三山の一角をなし、歴史的にも景観的にも、そして、人々の暮らしにとっても大切な役割を担ってきた宝が池の森。それが今、シカ被害やナラ枯れの拡大で森林環境は激変し、さまざまな植物が減って多様性を失いつつあるという問題は深刻さを増しています。そして、ツツジ類への被害も一気に拡大し、宝が池の森を特徴づけてきた風景が失われようとしています。『ツツジ咲き誇る美しい風景を未来につないでいく』をテーマに身近な森と関わる暮らし、野生動物との関係について、参加者全員で考え、行動へとつないでいきましょう。

参加費無料

スケジュール	
12:30	開場・受付
13:00	あいさつ・趣旨説明
13:10	<b>第1部 話題提供 / 宝が池の森・京都の身近な森の“今”をみつめる</b> <話題提供1> 「宝が池の現在の植生とその再生への道」：長島 啓子 <話題提供2> 「虫たちの世界と環境学習の視点からみる宝が池の価値」：齋藤 準 <話題提供3> 「宝が池周辺に生息するシカが森林に及ぼす影響と被害対策」：高柳 敦 <話題提供4> 「京都市域の野鳥の生息から生物多様性を考える」：福井 亘 休憩
14:45	<b>第2部 ディスカッション / 人がかわり森を守る・再生する ~宝が池の森育て~</b> <パネルディスカッション> 研究者の先生方、地域の方などのパネラーによる意見交換を行います。 <グループディスカッション> 参加者全員がテーマごとにグループに分かれて自由に意見交換・提案を行います。
16:50	まとめ・今後に向けて

- 概要
- 【定員】100名
  - 【対象】身近な森の利用・保全などに興味のある方
  - 【参加費】無料
  - 【お申し込み】参加者の氏名・連絡先・所属を明記の上、電話・メール・FAXにて、(公財)京都市都市緑化協会まで。  
※当日受付も行いますが、資料準備のため、なるべく事前にお申し込みください。
- 話題提供者 / パネリスト予定 ※敬称略・アイウエオ順
- 齋藤 準：京都工芸繊維大学大学院(応用生物学部門)准教授
  - 高柳 敦：京都大学大学院(農学研究科森林科学専攻)講師
  - 田中 和博：京都府立大学大学院(生命環境科学研究科)教授
  - 長島 啓子：京都府立大学大学院(生命環境科学研究科)助教
  - 福井 亘：京都府立大学大学院(生命環境科学研究科)准教授
  - 地縁組織の代表者 / 学校林関係者 など近隣地域の方々

**会場案内**

京都府立大学  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5  
[http://www.kpu.ac.jp/contents\\_detail.php?co=kak&frmid=28](http://www.kpu.ac.jp/contents_detail.php?co=kak&frmid=28)

<Access>

JR京都駅から ●地下鉄丸太線「北山駅」より約600m / 「北大路駅」より約800m ●市バス4番「北園町」より約300m / 205番「府立大学前」より約350m	京阪出町駅前から ●市バス1番「府立大学前」より約350m / 4番「北園町」より約300m ●京阪バス32番、34番、35番「府立大学前」より約350m	西条河原町から ●市バス4番「北園町」より約300m / 205番「府立大学前」より約350m
---	---	--

●お申し込み・お問い合わせ

(公財)京都市都市緑化協会 (担当：野田・小川・谷川)  
〒606-0037 京都市左京区上高野流田町8 宝が池公園子どもの楽園管理事務所  
TEL: 075-781-3010 FAX: 075-781-4422  
URL: <http://www.kyoto-ga.jp/> E-mail: [kaerusenpai@kyoto-ga.jp](mailto:kaerusenpai@kyoto-ga.jp)



# 生態学会・講習会 (専門家やNPO)

一般社団法人 日本生態学会  
第7回自然再生講習会

## 京の里山再生 ―理念と技術―

2014  
9/23 (Tue)  
13:00 ~ 17:00

講座  
場所：京都府立大学 大学会館 2階 多目的ホール  
定員：150名(先着) 講習費：1,000円

※当日、受付にてお支払ください。  
[テキスト] ●日本生態学会編(2010) 自然再生ハンドブック、地人書館(全場にて販売)  
●日本生態学会編(新田英人・白川剛信・中越信和 責任編集(2014) 里山のこれほどとこれから  
[http://www.esj.ne.jp/esj/book/ecology\\_7.pdf](http://www.esj.ne.jp/esj/book/ecology_7.pdf) (無料ダウンロード)

エクスカーション (フィールド視察)	①	9/22 宝が池・深泥池周辺	定員 30名
	②	9/23 上賀茂周辺	定員 20名

\*エクスカーションへの申し込み・参加は23日午後の講座参加者に限ります。

長い歴史、多様な文化・伝統を支えてきた京の里山。近代都市としての発展・グローバル化に伴う放置、ニホンジカによる食害やナラ枯れの蔓延によって、急激に劣化してきている。京の里山を再生し保全していくこと、それは、日本の文化・伝統の継承に繋が

一般社団法人 日本生態学会 第7回自然再生講習会

Program 京の里山再生

9/23 (Tue) 13:00-17:00  
進行：野田英策 (公財)京都市都市緑化協会

- 主催者挨拶  
緑田英人(生態学会自然再生専門委員会委員長)
- 京の里山―現状と課題  
栗田昌三・船田義孝(京都大学)
- 歴史性に基づく京の里山の再生目標  
高原光(京都府立大学)
- ナラ枯れを考慮に入れた里山の健康管理と整備の要点  
高田慶子(神戸大学)
- シカ食害による植生への影響評価とモニタリング手法  
加藤 義和(京都大学)
- シカの食害から里山を守るための技術  
高橋 敦(京都大学)
- 宝ヶ池周辺の里山再生に向けたゾーニングと計画立案のあり方  
高橋 慶子・田中 和博(京都府立大学)
- 里山再生のための協働のデザインとマネジメント  
藤田 真人(徳島大学)・野田 英策(公財)京都市都市緑化協会
- コメント  
1)京都市の取り組み―四季・彩りの森づくり  
久世 雅(産業観光局森林振興室林業振興課)  
2)今、何をすべきか?竹門 謙弘(京都大学)
- 質疑応答  
コーディネーター：藤田 真人(徳島大学)  
応答者：栗田 昌三、船田 義孝、高橋 敦、高橋 義和、竹門 謙弘、森本 幸希
- まとめ  
田中 和博(京都府立大学)
- 共催者閉会挨拶  
森本 幸希(公財)京都市都市緑化協会/京都府立大学

Excursion エクスカーション

22日午後は、宝が池公園子ども園から深泥池までの森林を歩き、京の里山の現状と課題、そして対策のあり方について共有します。  
23日午前には、京都大学フィールド科学教育センター上賀茂試験地での里山再生実験による森林再生の状況を見学し、里山再生のあり方を検討します。

9/22 宝が池・深泥池周辺の里山  
集合場所：宝が池子どもの楽園管理棟裏ミニテニールーム  
集合時間：12時45分 定員 30名

9/23 京都大学フィールド科学教育センター上賀茂試験地  
(Tue) 9:00-11:00 定員 20名  
集合時間：8時50分

『京の里山の現状、課題、対策』  
宝が池公園周辺の森林は、市民にとって憩いの場となっています。また、隣接する深泥池への栄養塩の流入を緩和することで、生物群集(国天然記念物)の存続を支えてきました。しかし、今、シカ食害やナラ枯れがこの森林を急速に劣化させています。本視察では、宝が池公園子ども園の裏園から深泥池までの森林内・林縁等を歩きながら、森林の被害状況や、植生保護・回復のための試行的取り組みの様子を解説します。

『京の里山再生実験―ギャップ創出後14年の姿』  
京都大学フィールド科学教育センター上賀茂試験地(1926年設置)は宝ヶ池、深泥池一帯に隣接し、かつては都市近郊の里山として機能していました。2000年1月に小面積の伐採による人工ギャップ創出が行われ、里山植生の回復が目指されています。本視察では、縦横、斜面、谷底に設置された実験区3ヶ所を見学し、植生回復状況の差異を確認するとともに、京の里山再生に向けた将来像を検討するための視座を共有したいと思います。

\*エクスカーションへの申し込み・参加は23日午後の講座参加者に限ります。





# ●森の問題の周知・共有にむけて～近隣・活動G〈学習会〉

森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる

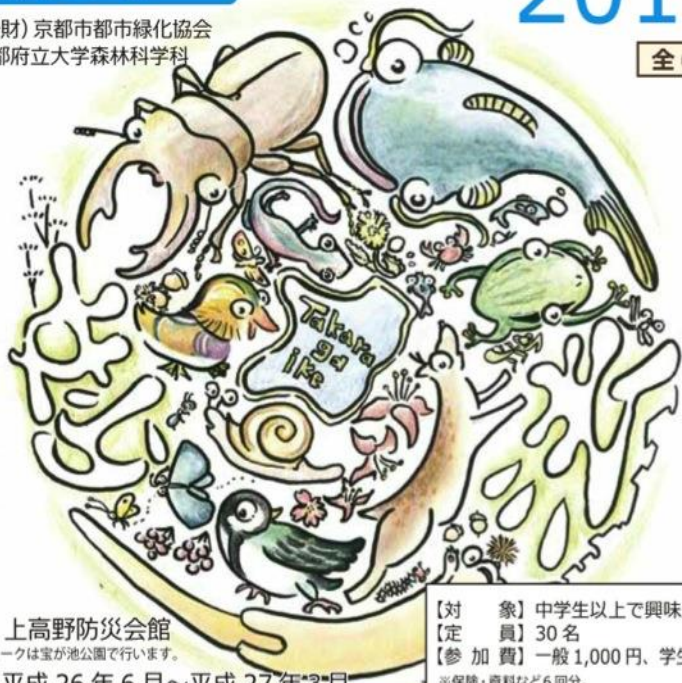
## 宝が池連続学習会

& 公開セミナー

2014

主催：(公財)京都市都市緑化協会  
京都府立大学森林科学科

全6回



会場：上高野防災会館

※フィールドワークは宝が池公園で行います。

開催日：平成26年6月～平成27年3月

◎一回のみのご参加も受け付けています。

【第一回】徳島大学(生態系管理工学研究室)教授 鎌田 磨人氏 / 京都工芸繊維大学(工芸科学研究所)准教授 齊藤 幸氏 【第二回】京都大学(農学研究所)講師 高柳 敬氏  
【第三回】京都府立大学(生命環境科学研究所)教授 田中和博氏 / 京都学園大学(バイオ環境デザイン学科)准教授 丹羽 英之氏  
【第四回】京都府立大学(生命環境科学研究所)准教授 福井 亘氏 【第五回】京都大学(農学研究所)教授 柴田 昌三氏 / 京都府立大学(生命環境科学研究所)助教 長島 啓子氏 【第六回】(公財)京都市埋蔵文化財研究所 吉崎 伸氏

【対象】中学生以上で興味がある方  
【定員】30名  
【参加費】一般1,000円、学生500円  
※保険・資料など6回分。  
※別途材料代が必要となる場合があります。  
※公開セミナーは無料です。

### 宝が池連続学習会 市民モニタリングを学ぼう・はじめよう

※フィールドワークと座学で学びます。動きやすい服装でご参加ください。

第一回

2014年  
6/14(土)  
10:00-15:30

『生きもの調査からはじめる、身近な森の生物多様性(1)』  
多くの目で様々な情報を得ることができる市民調査。観察や調査の意義を知り、情報の読み取り方から活かし方まで一連の流れについて、他都市での事例等とともに学びます。午後からは、フィールドに出て、簡易調査の実践を行います。

第二回

2014年  
7/13(日)  
19:00-21:00

『生きもの調査からはじめる、身近な森の生物多様性(2)』  
ナイトウォッチングでは、ふだんは見れない生物の姿を見ることができます。夜の宝が池の森を歩きながら、新たな調査アイデアを考えるとともに、夜に人が入ることによるシカの行動への影響などについても考えてみます。

第三回

2014年  
9/13(土)  
10:00-15:30

『MAPづくりをはじめよう。魅力ある森育てをはじめめるために』  
生物多様性豊かな森づくりに向け、計画づくりの手順を知るとともに、調査などで得た情報を整理し、発信していくための「情報マップ」づくりのノウハウを学びます。わかりやすく、利用しやすい記録からマップ作成までの過程を体験していきます。

第四回

2014年  
10/26(日)  
10:00-15:30

『宝が池界隈をめぐる、生物多様性ツアー』  
秋の宝が池の魅力を再発見する生物多様性ツアーを行い、子どもたちも含めた多くの人たちの目で、楽しみながら情報を収集します。いくつかのテーマから宝が池界隈をめぐる、多様性豊かな動植物とその環境を支えてきた人の営みについて考えてみます。

第五回

2014年  
12/14(日)  
10:00-15:30

『冬の森の利用と手入れ ～冬の森を楽しもう～』  
コバノミツバツツジが咲き誇り、どんぐりが豊かに実る森を引き継ぐために、ナラ枯れ後のシカによる被害が進む森の現状と、次世代の森育てにむけた試行の現場を学びます。フィールドでは、実生の育成作業や朽木の利用など森の循環を促す作業を行います。  
※日程は都合により変更となる場合があります。

第六回

2015年  
3/14(土)  
10:00-15:30

『宝が池界隈の歴史からみる森の利用とくらし』  
宝が池の森には人と森とが共に暮らしてきた歴史があり、地域で引き継がれてきた知恵や技、ルールが生物多様性豊かな環境を支えてきました。自然と地域の暮らしの関係を見つめなおし、歴史的視座からその魅力を活かした地域づくりと発信の方法を考えます。

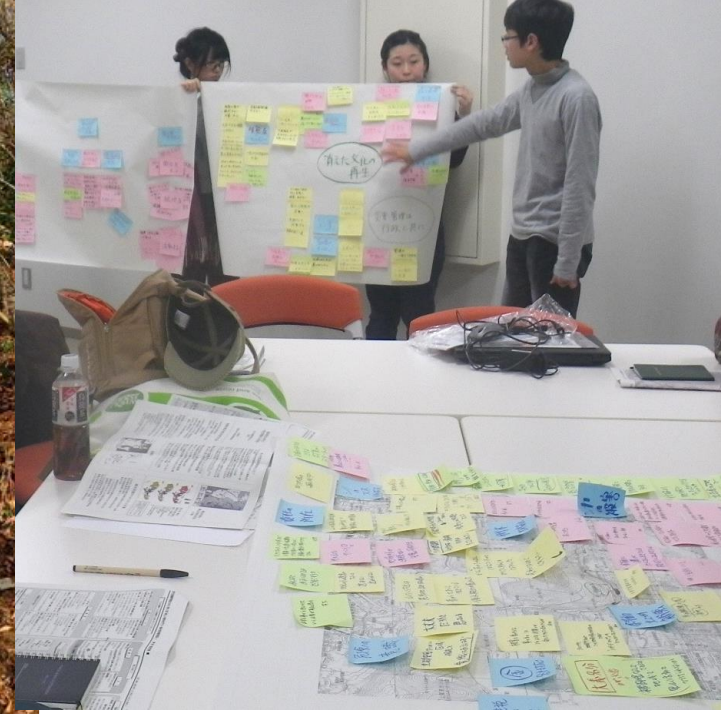
★子どもたちのあそび・まなびの場の運営としても  
★森林再生を実際にすすめるにあたっても……



- ・市街地に隣接する貴重な森
    - ・公園の森 として
    - ・住宅地の背後の森 として
- 「生物多様性」「安全性」と「魅力」をとりもどす

荒廃した理由は 森を使うことをやめたから  
そのためには 森に入ることが必要  
「正しい・新しい」情報と理解・手法の共有



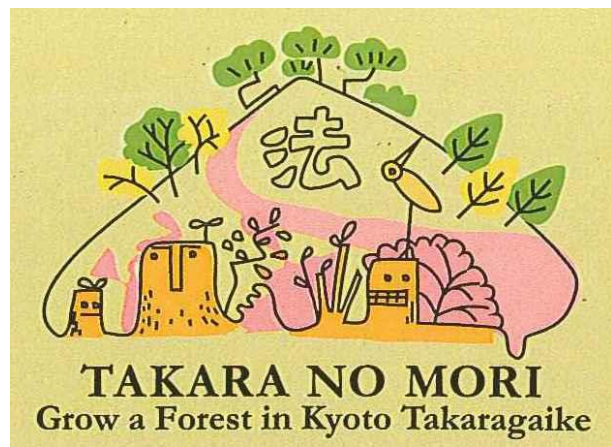


知識・理解・体験の共有 / それらにもとづく意見交換・方針づくり



## 宝の森をつくる会の 発足

‘宝が池連続学習会’参加者有志により、森を楽しみながら森を育てる「京都宝の森をつくる会」が発足（H26年春）.



## けむんぱアドベンチャー の開始

‘けむんぱくらぶ’のお父さんたちも「子育て」とともに 豊かなあそびのささえる「森育て」に力を発揮.





# けむんぱアドベンチャー(森林向上委員会)



子どもたちがすばらしい体験を重ねていけるよう  
お父さんが 森の手入れと一緒にはじめました




# ★パッチディフェンスによって植生の保護&再生

## 防鹿柵の設置

(2013年2月に超簡易版⇒2014年2月再設置)

・パッチディフェンスでささやかな応戦(対応)

危機感をもった近隣のひとたち、学生さんも一緒に  
森を楽しみながら、森を再生する活動をスタート



シカの食害防除  
実生苗の保護



10m×10mの防鹿柵設置(H25.3)⇒H27年9月



〈防鹿ネット内〉

〈防鹿ネット外〉

多様性回復・次世代の育成へ

防鹿ネット内・外 2021.5.1



# フィールドで どんぐりなどの実から苗木をそだてて森へ



種子からの苗木育成  
実生苗救出～育成



植栽





# 学習会や子どもの観察会を通じた調査 ～市民モニタリング～の継続

観察して 記録をのこしていく  
「むかしの情報」も大切！  
＜「研究者と協働」で実施＞





# 情報交換 + オープンな話し合いの場がたいせつ



「協働のプラットフォームづくり」の本格始動へ



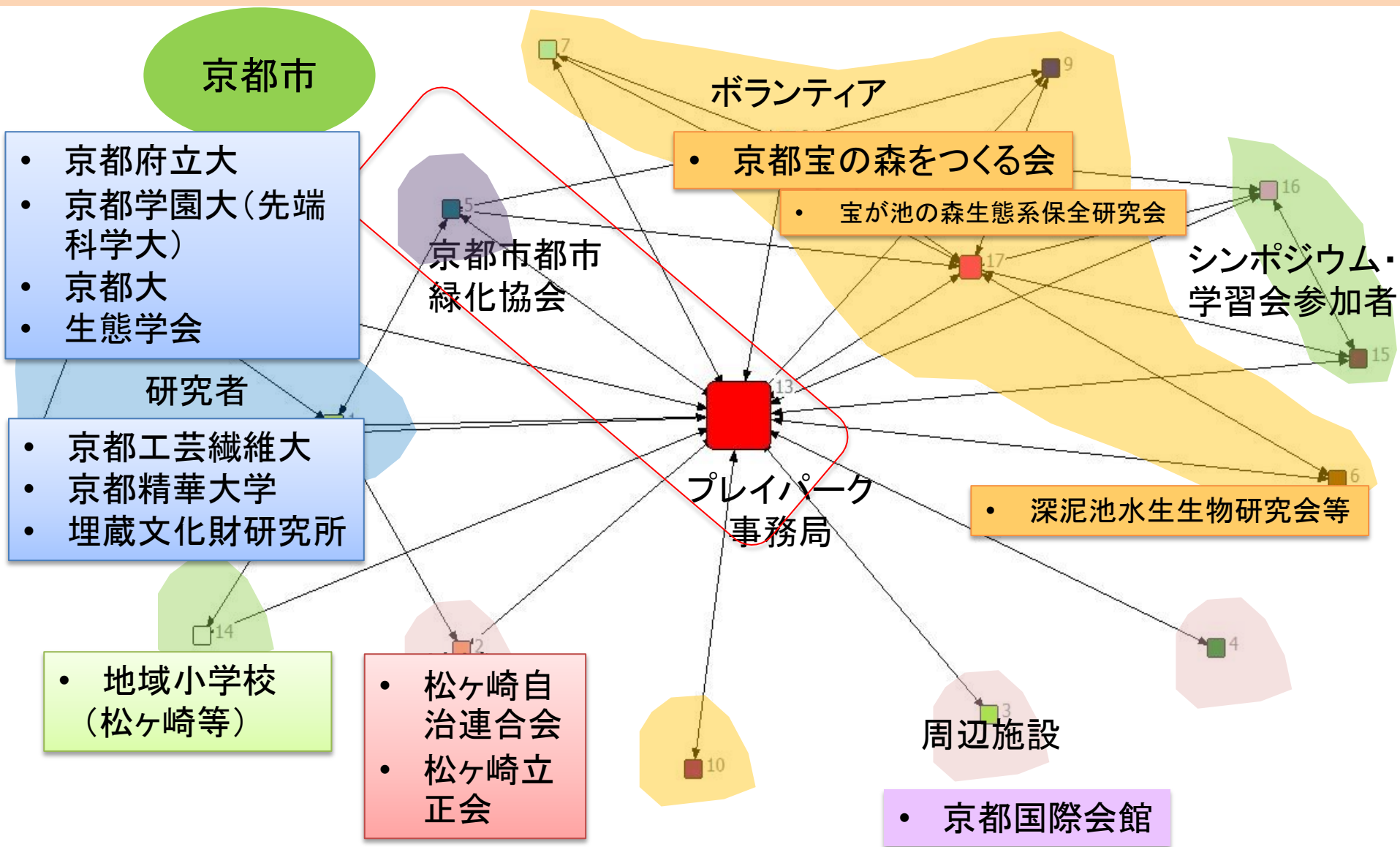
# 大規模なシンポジウムの開催〈国際会館にて〉



「『宝が池の森』保全・再生協議会」発足



# 宝が池の里山保全・再生に関わる人のネットワークのしくみとして『協議会』





# 公園管理者、地域住民、利用者、研究者等による 協働の場の継続・発展

協議会・学習会・観察会＋協働活動



- ❖ 課題と目標の共有
- ❖ 誰が、何を（役割分担）
- ❖ 継続的なマネジメントのしくみ

## 複数の土地所有者の存在 〈公的所有地と民有地〉

公的機能が高い里地里山の多くは民有地。しかしその維持には手入れが不可欠で多大な労力を伴います。  
地域の方々と 恩恵を受けている多くの人々が上手く力をあわせて維持していくしくみが大切です



# ■ 湿地の土砂堆積・陸化



一例…湿地保全 / 池の調査～再生へのとりくみ進行中

各グループでの取り組みとともに



■ 宝が池では外来種問題が甚大に



# 宝が池の森を どう再生しどう活かしていくか 『協働』『連携』の利用と管理へ



**公園管理者、地域住民、利用者、研究者等の協働による  
森林（湿地・池を含めて）再生等の取り組みを  
継続する・広げる・発展していく**





# シンポジウムや学習会で重ねた意見交換を活かし 共通の目標像をもって 実行へとつなぐことめざす！

## 問題なこと・心配なこと / 課題を共有

### シカの食害・ナラ枯れに 象徴される森の荒廃

- 食害で植物の多様性が守れない  
根こそぎ食害を受ける  
他の生物への影響も心配
- シカ食害とナラ枯れで本来の木々の姿がみられない
- 歴史のあった山城原野が失われた
- 次世代の木が育っていない
- シカが増えて、ヤマビル、ダニが多くなった。山水の大調整も増えている。
- 密度が高すぎる。宝ヶ池全域でシカ

### 人が森とかかわらない

- 若い世代の森林（自然）離れ
- 森や里山に重要性を見出さない。無関心すぎる。
- ★山の資源を使わない
- 大きく育った松やナラが利用されず枯れてしまうのは経済的損失
- 植生の変化が激しい。  
・シイは困る。特にツブラジイ

### ★山作業の担い手& 技術継承の不足

# 問題 心配なこと

- シカの数をどのように減らすか？
- 鹿ネット以外の方法はないか？  
宝ヶ池に限定するのなら解決方法もあるかもしれない…
- どのように囲うのが効果的か。
- 宝ヶ池の山は多くの土地所有者があり、それらの調整が不可欠。難しいが…  
(深泥池では、土地所有者の関係で柵が貼れず、水生生物の保全が難しい状況)
- 山だけをフェンスで囲うのが良いのか？
- 人がもっと入ればシカは寄らないか？
- シカ対策犬を使う  
(EX) 夜中に放す、近隣で声かけ散歩)
- 市民ができるナラ枯れ対策は？

### ナラ枯れ・松枯れ対策

シカ対策：  
パッチディフェンスからスタート/シカをとる

### 防災面での不安・心配

- 斜面の土砂流出の心配
- 人家の裏山の荒廃・シイの大木倒木・落枝の不安

### 法規制・予算による制限

- 鳥獣保護区・公園であることなどによる 行動の制限 など

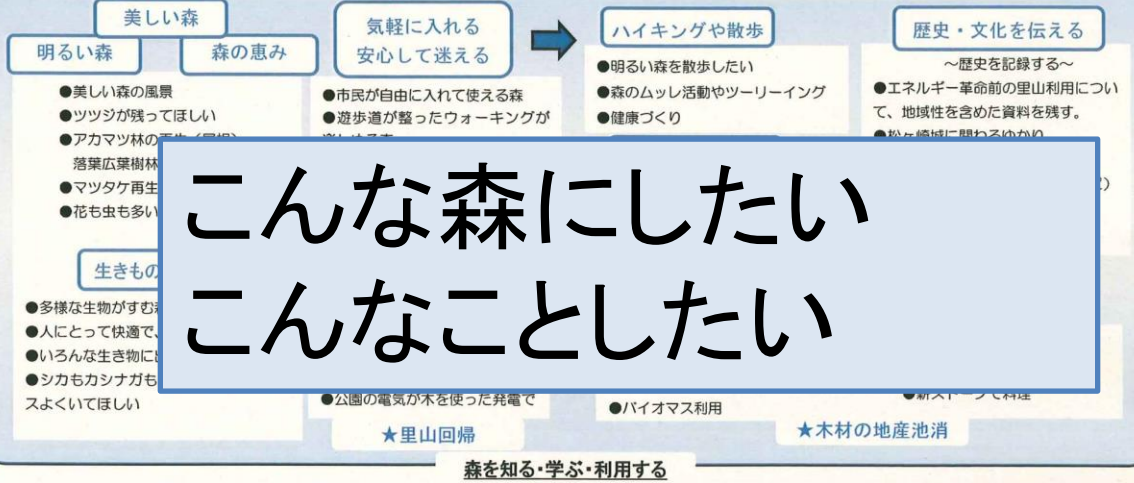
### 取り組み主体・継続性

- 誰が主体？
- 誰が山を管理している？
- 誰が声をかけていく？ など

## \*こんな森にしたい！

## 森のイメージ

## \*こんなことがしたい！



こんな森にしたい  
こんなことしたい

### 人が関わり続ける必要性

### トラスト的取り組みの必要性

### 宝ヶ池だけで閉じない対策

### 計画の必要性

それを解決・改善するためには？

実現していくためには？

新しい「物語」「伝説」がつけられる

必要なこと・できること\*提案

仕組・体制づくり

★協議会組織が必要

★コンビネーション  
コラボレーション  
コミュニケーション



# 課題

人が関わり続ける必要性

トラスト的取り組みの必要性

宝ヶ池だけで閉じない対策

計画の必要性

消費でなく自分でかかわる

- 楽しめる活動がつながっていく

関わる次世代をそだてる

- 親世代
- 子ども
- 日本
- 親子で自然と遊びながら文化・伝統を継承する
- 子

- 全学校で里山活動を授業に利用
- 地元の農事や木の利用をプログラム

- 横の連携を

「伝説」がつけられる

## 財源確保

大きなシステムの中で展開する

調整

## みんなのルール

つくる

人材の

## 人育て

## 拠点

## 発信

## コア

## 行政と

必要なこと・できること\*提案

## 関わり続けるしくみ

- 研究者の調査・研究をいかす
- 専門家も含めた組織運営
- 人材さがしとの作業サポートの仕組み

木・山の管理

## 森の管理

## 計画づくり

- 木の伐り方 など

## 具体対策 シカ・ナラ枯れ..

情報発信・意識向上  
世界とつながる宝ヶ池

仕組み・体制づくり

★協議会組織が必要

ネットワーク  
コミュニケーション  
コミュニケーション

- 森や里山を好きにな

の表示板設置  
版を作成し、世界へ発信

⇒ホームページ・広報の充実

★

★森のセンター

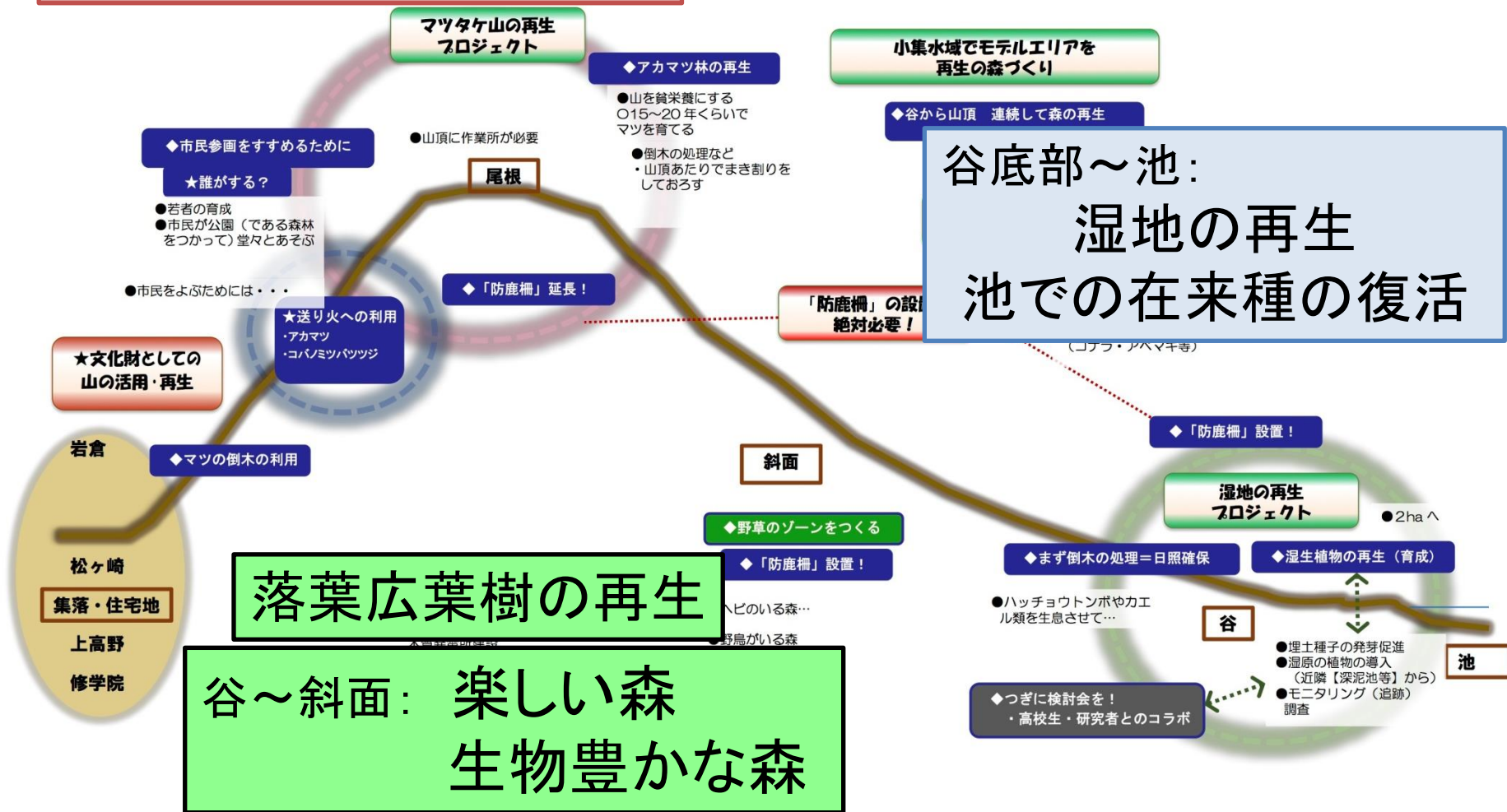
民

民



# 学習会等での意見交換 → マップ化してよりわかりやすく具体的に

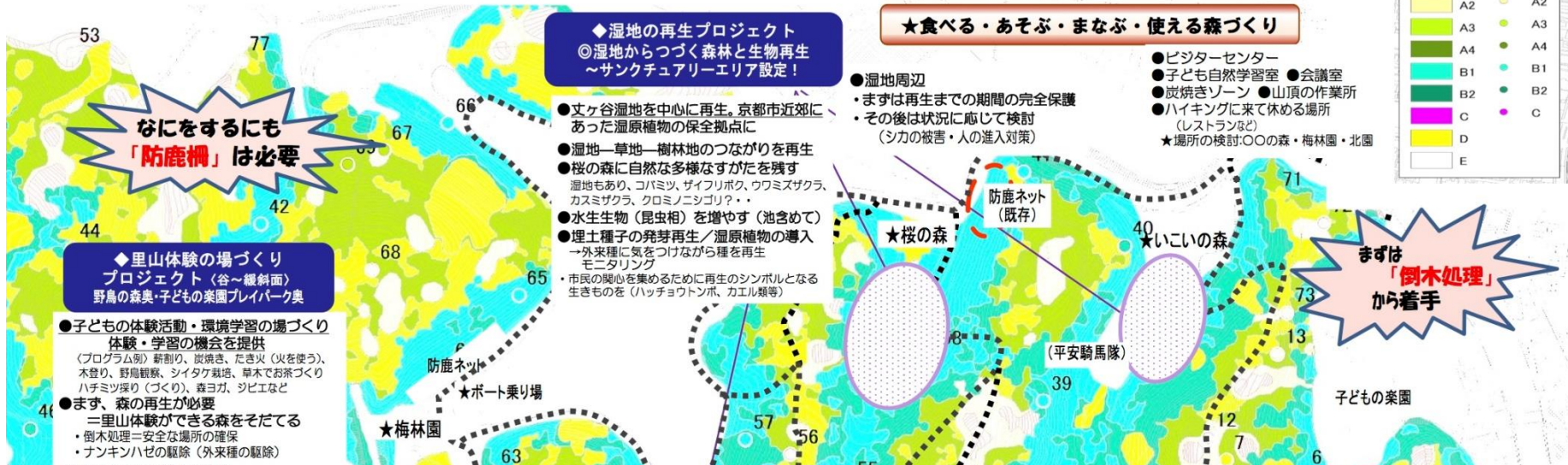
## 尾根: アカマツ林を育てる (松茸も?)



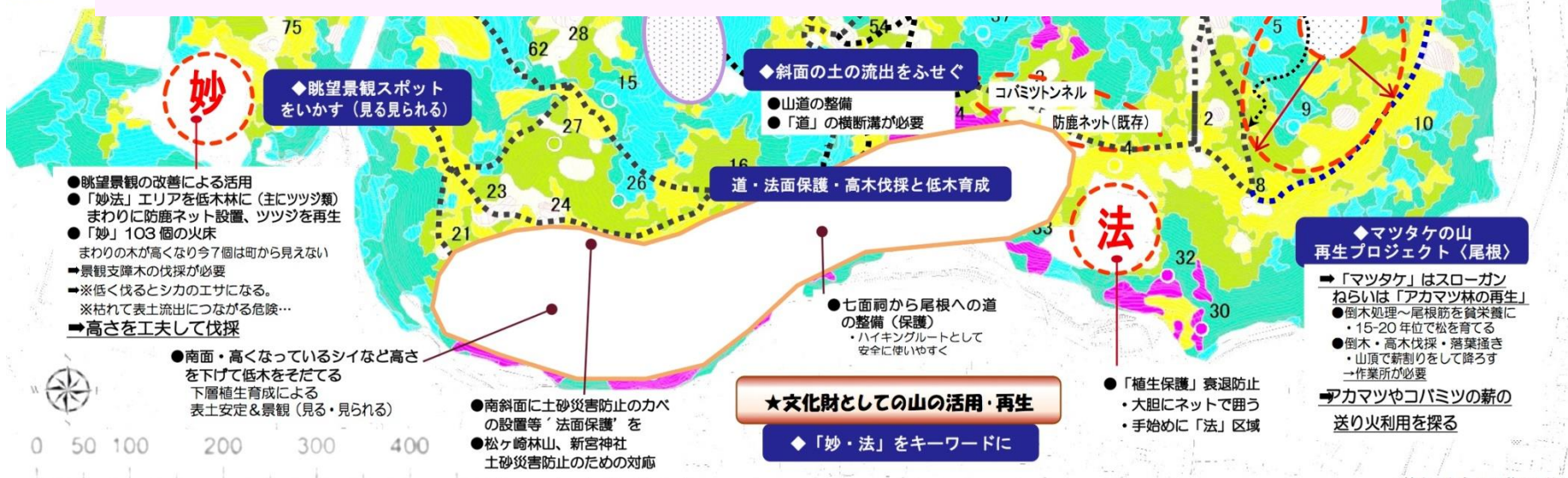


■ディスカッションまとめ「～宝が池の森のこれからを考える～」＝‘場’に関する意見集約

植生図		調査地点	
■ A1	● A1	● A2	● A2
■ A2	● A3	● A3	● A3
■ A3	● A4	● A4	● A4
■ A4	● B1	● B1	● B1
■ B1	● B2	● B2	● B2
■ B2	● C	● C	● C
■ C	● D		
■ D	● E		
■ E			



宝が池連続学習会等（8年開催中）で積み重ねた意見をMAP化

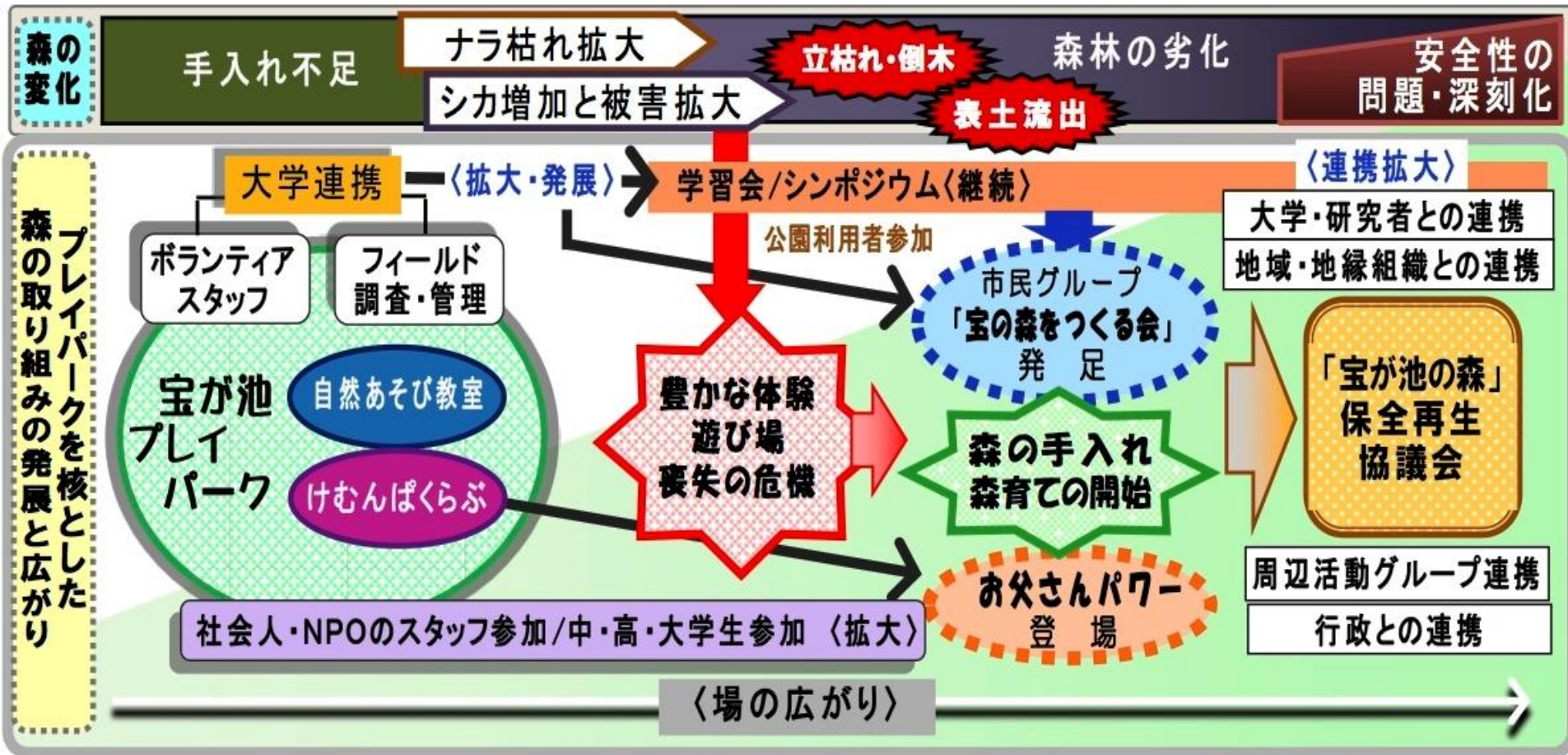


<植生図作成：丹羽英之氏他>

プロジェクトへつなげよう



# 「自然あそび」から「森そだて」へ





# 取り組みの展開・連携 〈現在の状況〉

「公財京都市  
都市緑化協会」

けむんぱ  
アドベンチャー  
(森林向上委員会)

宝が池  
プレイパーク  
(子どもの楽園)

「自然あそび  
くらぶ」

研究室連携  
(京都工芸繊維大)  
研究者・学生

- 防鹿ネット設置
- 倒木 落枝処理
- 苗木育成 植樹
- 土留め

京都市

「京都宝の森  
をつくる会」

- 倒木利用  
すみやき  
アウトドアクッキング  
(精華大協力)

- 外来種(ナンキンハゼ)  
調査と 対策  
(・啓発活動  
・案内板設置)

- コバミツを守ろうPJ  
「法」の字PJ

楽しみながら  
森の手入れ

「宝が池連続学習会」  
緑化協会/府立大森林科学科

「宝が池の森  
保全再生  
協議会」

あそびとまなびを  
兼ねた  
モニタリング

調査・研究  
(研究者・NPO協働)

大学研究室  
(京都大・京都府立  
大・先端科学大等)  
研究者・学生

「公財  
松ヶ崎  
立正会」

- 自然あそび  
観察・学習会  
・動植物の継続記録

- シカの行動
- 危険木・現存植生
- 森林再生
- 土壌流出
- 池・川・湿地調査

「宝が池生態系  
保全再生研究会」

「深泥池水生生物  
研究会」